

# 「奄美大島の自然環境・地場産業・歴史文化を学ぶ」

担当教員名 長谷川 直哉 竹原 正篤

## コース概要

|      |                      |
|------|----------------------|
| 日程   | 2018 年 9 月 10 日～13 日 |
| 場所   | 鹿児島県奄美大島（奄美市ほか）      |
| 参加人数 | 40 名                 |

## コースのねらい

奄美大島の自然環境・地場産業・歴史文化を学ぶことで、離島に生きる人々の価値観を肌で感じ、地域社会のサステナビリティを考える。

## 内容

### 1 日目

奄美大島空港にて現地集合後、原ハブ屋にて奄美大島の自然と生態系におけるハブの位置づけに関する講演を聴講し、島民の生活とハブの共生関係について学習しました。夜は、ばしゃ山村リゾートにて郷土料理である「鶏飯」を堪能し、自己紹介等を通じて参加メンバー間の交流を深めました。

### 2 日目

奄美大島の南西に移動し、マングローブパークにてカヌーを使ってマングローブの原生林を見学し、奄美大島特有の自然を感じることができました。午後は半潜水船「せと」に乗船し、奄美大島と加計呂麻島の間にある大島海峡においてサンゴ礁を見学しました。200 種ともいわれるサンゴが生息する海中の景観は想像を超える素晴らしさでした。その後、大島海峡と加計呂麻島を一望できる高知山展望台に移動し、改めて奄美大島の豊かな自然の尊さを実感しました。夕刻は東シナ海を臨む大浜海岸にて海水浴とバーベキューを堪能し、1 年生から 4 年生まで学年を超えた交流を図ることができました。



カヌーによるマングローブ原生林の散策



高知山展望台から加計呂麻島を望む

### 3 日目

午前中は大島紬村を訪問し、地場産業である大島紬の作業工程や作品を見学しました。世界三大織物に数えられる大島紬の高度な技術と職人技の一端を学ぶとともに、生活様式の変化による大島紬のマーケティングの課題について議論しました。

午後は人間環境学部への進学者もいる鹿児島県立大島高校を訪問し、高校生約 40 名との交流会・ミニオープンキャンパスを実施しました。高校生との進路に関する対話を通じて、大学生活で何を学びたいのか、将来の目標は何かなど、FS 参加者が自分自身を見つめ直すきっかけを得ることができました。交流会は大いに盛り上がり、当初の予定時間を大幅に延長して実施しました。



大島紬の製作工程を学ぶ



県立大島高校での交流会（グループ討議）



県立大島高校での交流会（参加者全員で記念撮影）

#### 4 日目

午前の名瀬市内の中心商店街の見学、初日に訪れたばしや山村にて地元の方との交流や郷土品に触れるなど、奄美大島での学びの振り返りを行いました。台風による関西国際空港の閉鎖によってフライト時刻が5時間ほど遅延したため、予定を変更して、ばしや山村海岸にて時間の許す限りマリンスポーツを堪能しました。



ばしや山村海岸にて

#### 学習を終えて

フィールドスタディで初めて奄美大島を訪れて、日常生活では絶対にできない貴重な体験をたくさんすることができました。関東圏に住む私とは全く違う生き方をする住民や、真っ青な海・マングローブ林をはじめとする美しい自然、奄美大島特有の文化・産業など、見るもの全てが新鮮です。また、奄美大島の文化や産業に携わる人々や高校生たちと関わり、その活力に圧倒されました。（2年生）

高校生たちの中には、「将来は島を良くしていきたい」「島に貢献する仕事がしたい」と話す人がいました。それは、「島」を身近に感じていなければできない発言だと思います。私は自分の住んでいる地域に貢献することを、我が事として考えたことはありません。奄美のことを我が事として考える高校生の姿から、社会課題を他人事ではなく自分事として考える姿勢を持つことが、未来を担う人間の役割であることを学びました。（1年生）